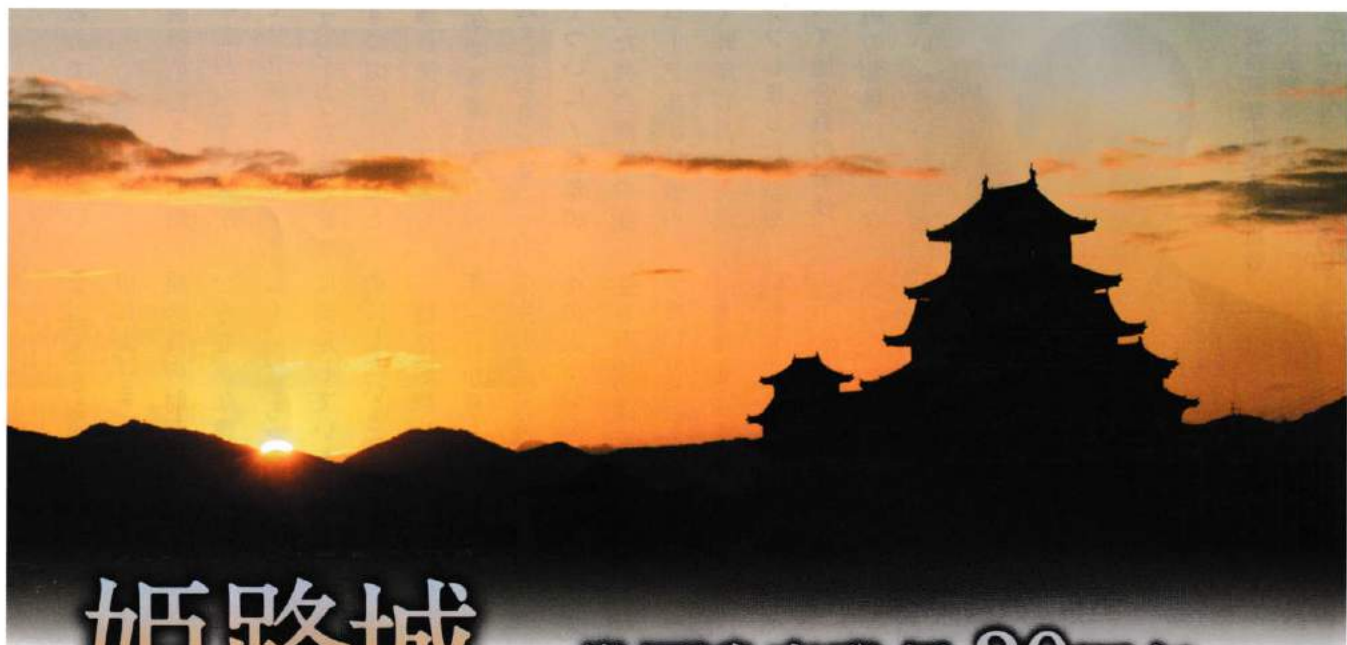


2024年
1月1日
No.522

ひめじ



● 組合員 18,183人 ● 出資金 414,620千円 ● 1人平均出資金額 22,803円 (2023年11月30日現在)



姫路城 ～世界遺産登録30周年～

1993年(平成5年)12月11日。この日、姫路城が、奈良の法隆寺と共に日本で初めてユネスコ世界文化遺産に登録されました。現在、日本には25の世界文化遺産が存在しますが、その1番手というのは大変誇らしいですね。

姫路城は、1346年に赤松貞範が姫山に築城したのが始まりで、現在の大天守は1609年に池田輝政によって建築されたものです。白鷺が羽を広げたように美しいその姿から、別名「白鷺城」とも呼ばれています。白鷺城以外にも、調べてみると興味深い別名がありました。第二次世界大戦において姫路は2度大規模な空襲を受けました。



▲12月のライトアップも素敵でした



▲優しく街を見守る夕焼けの姫路城

市街地は焼け野原になり多くの犠牲者が出ましたが、姫路城だけは奇跡的にほぼ無傷であったそうです。そのことから、「不戦の城」、「白い不死鳥」とも呼ばれています。

明治・昭和・平成とその時代ごとに大規模な修理・改修を行って、美しさを永く保ちながら姫路市民の誇りとして輝き続ける姫路城。この30周年を機に、改めてその魅力に触れてみてはいかがでしょうか。

(写真…常任理事 川井隆

文…地域サービス部

藤木 祐弥)



2023 WHO ウォークイベント 『古地図片手に 千姫ゆかりの地巡り』

4年ぶりの開催となったWHOウォークイベント。2023年は、「古地図片手に千姫ゆかりの地巡り」と題して姫路城と船場城西部地区を散策しました。姫路城周辺の見どころスポットをご紹介します。

まだ残暑を感じる10月3日、姫路城大手門前に参加者20名が集合しました。NPO法人「船場城西の会」の理事長・柴田武志さんに案内役をお願いして、さあ出発です。



▲ウォーキングスタート!!

まずは姫路城の大手門をくぐる前に、門の左手にある石垣に

斧の刻印を見つけました。これは昭和初期に行われた国道2号線の敷設工事の際に中堀を埋め立てた時に取り壊した総社門の一部だそうです。姫路城観光で誰もが通るこの大手門ですが、1938年に建てられた比較的新しい門であることはあまり知られていないのではないのでしょうか。



▲大手門 斧の刻印



大手門から西へと進み、お堀を北上します。ここは「千姫の小径」と言われ、石垣に生える美しい苔や優雅に泳ぐ鯉を見ることができ、約500年前に千姫も歩いたのかもしれない。城北の清水橋を渡り、少し西に進むと、水尾神社とその先へ続く階段が。少し疲れてきた脚を励ましながら登った先に男山千姫天満宮が現れます。



千姫は、徳川家康の孫で、再婚した本多忠刻と10年ほど姫路城で暮らしたと言われています。男山千姫天満宮は、千姫が本多家の繁栄を願って建立し西の丸長局の廊下から朝夕選擇したと

言われ、城内から遙拝できるよう東向きに造営されています。男山から見た姫路城は、姫路城十景の中でも人気のビュースポットで、木々の間から見える姫路城は南側から見るその顔とはまた別の表情をしています。男山を下し鷹匠町を南に抜

けて一行は船場川沿いへ。川沿いから少し西へ進むと室町時代からあると伝えられる見星寺に到着です。寺猫に挨拶をして本



▲見星寺



堂横の通路を進むと、裏墓地には江戸時代初期の武将：鉄牛和尚の卵塔や藩主本多忠政・政朝の五輪塔などを見ることが出来ます。さらに見星寺を西へ進むと、子ども達のにぎやかな声が聞こえてきます。曾洞宗の寺院：景福寺です。認定こども園が併設された景福寺は、江戸時代からの約四千基の墓があると言われていて、江戸時代後期の姫路藩主であった酒井家奥方や子の墓もあり何れも大きく立派です。他にも歴史を感じさせる仁王像やグリーンのかわいらしいお地藏さんもあって、参加者で手を合わせました。



▲景福寺仁王門

景福寺を下する途中にテレビ番組でも取り上げられたとい



▲世界一短い橋(約90cm)

う世界一短い橋があります。建物と建物の背を割って作られたことから背割下水と言われ、豊臣秀吉が大阪・船場に整備した太閤下水が有名ですが、同じく秀吉が統治した姫路・船場にも類似の下水が残っています。長さ約90cmの橋を「せくの」と大股で渡って、最終目的地の船場本徳寺を目指します。



▲初井家住宅 ▲船場本徳寺

途中、姫路を代表する歌人・初井しづ枝の家を見ることが出来ます。



▲勤皇志士の墓

江戸時代から修復作業を繰り返して、西国街道の風情が今もそのまま残る優美な建物です。姫路市指定景観重要建築物となっています。

さて、一行は国道2号線を南下して船場本徳寺に到着です。2時間半の散策でこの頃には参加者から「脚と腰がそろそろ汗」といった声が漏れていました。



船場本徳寺は浄土真宗の寺院で江戸初期藩主の本多忠政が創設し、船場御坊の名前で地域に親しまれています。明治天皇が姫路を訪れた際にご宿泊された行在所や勤皇志士の墓、西南の役の供養碑、第一次世界大戦時



▲ドイツ兵捕虜が作った洋城模型

のドイツ兵捕虜がセメントで造ったとされる洋城の模型などが現存しています。参加者からは「来たことはあったけど、こんな歴史があるなんて知らなかったなあ」と柴田さんの説明に感銘を受けていました。

城下町姫路の史跡を辿りながら組合員同士の交流と健康づくりに取り組むことができたウォークイベント。2024年も開催しますのでご期待ください。(文：地域サービス部課長 久保茂 写真：地域サービス部 藤木祐弥)

地図出典：姫路市・船場・城西の会制作「播磨の國・姫路寄り道マップ～船場城西・城南～」